

段ボールで新聞閲覧台を手作りした生徒



土橋中学校(日置市)

社会への関心高まる

全校11人の小規模校。実践校初年度は、まずは新聞に触れ、興味を持つことを目指した。生徒らは、段ボールで新聞の閲覧台を手作りして廊下に設置し、各紙を手軽に読み比べられる環境を整えた。

1年は「環境、学び、遊び」、2年は「平和、福祉、環境」、3年は「進路、仕事、未来」のテーマで記事を読んだ。話題の記事を掲示板に張り、新聞活用機会を広げた。それぞれ

気になる記事で「土橋新聞」を作ったり、義援金のポスターに生かしたりした。

生徒会は、全員が同じ南風録を読み、感想をまとめて報告し合う活動を企画。

学習文化部長の杵玄太さん(2年)は「多様な意見が出て、自分の考えを深められた」と評価する。恵正幸教諭(48)は、「社会問題への関心が高まった。2年目以降は、読んで表現することにつなげたい」と話した。

(吉田文)

「朝しんぶん」の感想を聞く生徒たち



大口明光学園中(伊佐市)

「第3の教材」で活用

実践校2年目。昨年度のテーマは「新聞に親しむ」だったが、本年度は「表現力を磨く」とレベルアップした。新聞を読んで感想をまとめる「朝しんぶん」に取り組み、クラスの終礼で発表している。中でも3年生は級友の発表を聞き、自分の意見をまとめる欄を設けた。

広島県の被ばくした建物の保存を巡る記事では、「壊すのは簡単だが何も残らない」「維持には予算がかか

る」と賛否が二分。NIE担当の知念禎教諭(34)は「多様な意見を受け止めるようになった」と語る。

税に関する出前授業の後に、会計検査院が税金の無駄遣いを指摘した記事を課題として与えると、使途への関心が高まった。実践校は本年度で終わるが新聞を活用した授業のノウハウを培った。知念教諭は「教科書、副教材に次ぐ第3の教材として活用していきたい」と話した。(浦牛原健)